

子どもたちにもう一人保育士を！

たちばなふみ市議 一般質問④

たちばなふみ市議の一般質問「もう一人保育士を！」について報告します。

送迎バスでの園児置き去りや、虐待問題などが相次ぎ、

全国で「子どもたちにもう一人保育士を！」との声がひろがりました。たちばな市議は地震、火災など災害時に「国



たちばなふみ市議会議員

さらに松江市内の保育士の声として「0歳児はミルクの対応、離乳食、移行食、普通食の子が混在」「アレルギのある子、障がいを抱える子も増えており一人ひとり見てあげないと事故につながる」など現場の声を届けました。また「日本の保育士配置基準は1・2歳児は50年以上、4・5歳児は基準制定以来70年以上、一度も改善されてい

ない。市内の保育園の実際に勤務する保育士の人数が基準の1・3倍という現状は現行の配置基準では子どもの安全が守れないために、各施設が上乗せ配置をしていることが明らか」と指摘し、(1)現場の実態の認識、(2)子どもの命と安全のため国に強く改善

子どもまもる保育士配置基準の改善を しまね保育連絡会が松江市へ要望

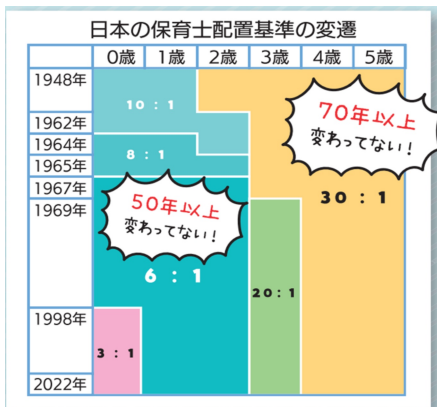
2月17日、しまね保育連絡会(森山幸朗会長)が松江市保育行政と懇談しました。連絡会に参加する市内3園(虹の子、こぼと、わかたけ保育園)から園長はじめ現場の職員、また県福祉保育労組から合わせて9名が参加、①配置基準の改善および②発達・教育相談支援センターの充実を求め現場の実態を訴えました。

「0歳児の赤ちゃんの場合、首が座っていないくても保育士1人で3人、1歳児は保育士1人で6人、4・5歳児は1人で30人」、これでは「日常

「国の基準に則っており、市長会で国に基準と処遇の見直しを要望している」などと応じました。発達・教育相談センター山本勉所長は「12年間職員数が変わっていない。体制強化へ計画的にスタッフの充実を図りたい」と応じました。舟木健治、たちばなふみ両松江市議が同席しました。



市へ要望する連絡会のみなさん



たちばな市議が引用したグラフ

性の多様性認め合う社会へ

たちばなふみ市議 一般質問⑤

たちばなふみ市議の2月議会一般質問5項目の中で「性の多様性認め合う社会へ」について報告します。

たちばな市議は「岸田首相の同性婚の法制化に関して『家族感や価値観、社会が変わってしまう』という国会答弁や、その後首相秘書官による性的少数者や同性婚をめぐる差別発言に批判が集まっている」と指摘しました。「松江市は『寛容』な松江を目標に『国籍・年齢・性別や性自認、障がいの有無などにかかわらず多様性が尊重され自分らしく過ごせる』まちをめざしている。性の多様性を尊重

要望を、(3)市独自で一刻も早く改善を、と市の見解を質しました。

青木佳子子育て部長は「国は4・5歳児の配置基準を『25対1』になるよう独自に保育士を配置した保育施設への補助金を検討している。市としては、配置基準自体の見直しを実施するよう全国市長



本会議場で一般質問を行う たちばな市議

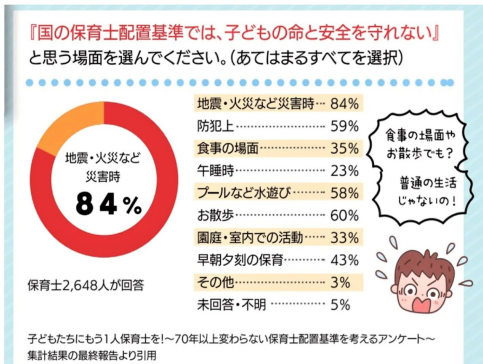
上定昭仁市長は「松江市民のモットーは『寛容』が目標。性の多様性をはじめ国籍・年齢・性別や障がいの有無などにかかわらず自分らしく過ごせるまちが目標とする姿」と答弁しました。

吉田紀子市民部長は「パートナーシップ制度については有益な制度のひとつ。制度導入に向けて具体的な検討を進めていきたい。LGBTQの方々に対する偏見、差別、誹謗中傷はあってはならず、引き続き市民への啓発を図っていく」と答えました。

また、たちばな市議は「旧統一協会、世界平和家庭連合は性の多様性を真っ向から否

定する考えを主張している」「この団体の幹部が、松江市教育委員会が後援した島根人格教育シンポジウムにてパネリストとして参加している。島根県平和大使協議会と松江市教育委員会がシンポジウムの後援団体として名を連ねていることは、結果として旧統一協会に市が信用を与えることになるのではないかと指摘し「性の多様性を否定する団体の講演会等に対して教育委員会の後援はふさわしくなく後援名義を取り消すべき」と主張しました。

成相和広副教育長は「現在国が調査をしており、その結果、当該団体に関連団体であると推定される場合には名義後援の取消しを含め対応を検討する」と答弁しました。



たちばな市議が質問で示したパネルより